芽吹き

栗山政子

走り根のうねる大地や寒明くる
悼むこと多しつぎつぎと草の芽
春は曙むらさき色の雨が降る
薄氷の放つ光の中に鳥
蕗の薹食うて心に花ひらく

人間を見てゐる鴉冴返る
早春や泉の音の艶艶と
みな同じ雲を眺めてあたたかし
紫木蓮ひらきて空の匂ひけり
からつぽの胸に囀がいつぱい
倒木の芽吹きを囃す鳥の声
春雷や走り根に身の浮き上がり